

# 私の職場における職務意欲の向上策について

久々野営林署 牧原清春  
石田隆夫

## 1. はじめに

国有林野事業の経営改善に取り組んで以来すでに4年、野麦製品事業所においても仕様仕組の改善、能率性の追求、労働安全衛生の確保等について、鋭意努力を重ねてきたところであります。

しかしながら、現地の実態からすれば年々作業現場の奥地化が進み、通勤時間のかかり増しと資材の低質化、伐区の分散化と皆伐保残木作業の増大等、諸条件が悪化するとともに、作業職員の高台化等による労働生産性の鈍化等から、毎年毎年業績を向上することは現実問題として困難な状況であります。

ともすれば「昨年より条件が悪いのだから無理だ」とか、「安全的にも問題がある」、「とてもそんな事は出来ん」といった意見が多く出て、職場全体が消極的になりがちとなったり、また「経営改善は現場だけのものか」といった反発の声も多くありました。

しかし、本当に無理なのか、今やっていることはこれでいいのか、惰性に流れていることはないのか等、考えれば色々と疑問は出てきます。仕事をやる上に無理・無駄をなくしていくことは当然ですが、署から事業所から“おしつけられて”といった考え方で、いやいやな仕事をやるようでは決して良い結果が出るはずがありません。

そこで先ず、自らがやる気のおきる職場作りに心掛けること。

そのためには、自分達の仕事に自信と誇りを持ち共通した認識の上に立って、健康で明るい職場を築き仕事をやっていく必要があります。

労働生産性の向上にむけては、一人一人が納得してやる気を出すこと“職務意欲の向上”こそ重要であると考え、以下今日まで目標としてきたこと、実行してきたことを報告します。

## 2. 実行内容

### (1) 作業計画への参画と状況の把握等

ア 年間の事業計画については、年度の始めに主任が全員に対し説明を行います。更に問題のある箇所については現地で話し合っ理解をし、全員が作業計画を熟知出来るようにした。

イ 新しい伐区等に着手する時は、必ず班長を中心とし、班員全員で作業手順、作業方法等、段取りを話し合い、みんなが納得した上で作業にかかるようにした。

ウ 当日の作業指示等については、班長がTBMで説明し、その日の班員の身体の調子等を確め

た上で、ローテーション表を基に作業配置を行い、備付の掲示板に明示し、誰がみても一目でわかるようにした。(表-1)

エ 月々の計画に対する進行状況や能率給の達成度合等について、常に状況を把握し班員にわかるように理解させた。

## (2) 安全に対する取り組み

ア 54年度より他事業からの職種換者や新規採用者があり、これらの人達は指差する視点をどこに向けるかもわからない状態であったが、根強い指導と本人達の努力により指差確認の定着化が図られた。

イ 署・事業所の安全目標以外にも、各人が毎月こんな事を守ってやろうと考えていることを、安全行動目標として休憩所に掲示し、TBM等にも活用して実行した。(表-2)

ウ 緑十字の日には、特にTBMを入念にし、当日の作業について危険な箇所状態等の話し合いや、集材機、重垂周辺の点検と休憩所の整理整頓を、班長と当日の運転手、当日の安全当番等で実施した。

エ 施設の点検は、毎月1回は必ず実行し、特に梅雨や台風の時期は点検を強化した。

オ 安全日誌は、毎月署へ提出し、署・事業所・班と日誌を通わず中でも意志を疎通を図った。

カ 自分の身体は自分で守ることを基本にし、その日の疲れを翌日に持ち越さないようにするため、休養を十分取るように心掛けた。

## (3) 副作業の軽減

先取りした伐区の設定により効率的な架線設計をするとともに、天然木においては極力土盤台利用を考え、また、先柱への器材の運搬等についても、索の張り合せ等により機械力を利用した器材運搬を行い、労働力の軽減と効率化を図った。

## (4) 意志疎通を図る

毎月1回は、全員で事業の打合せ会を安全懇談会とあわせて、計画実行した。また、レクリエーションや全員積み立てによる旅行を計画実行し、こうした機会を利用して相互の親睦を深め、意志の疎通を図るように努めた。

## (5) 職場規律の保持

民間等から「営林署の者は何をしているんや」といった類の批判をされないう、職場規律の厳正に努めた。

## 3. 成 果

(1) 作業内容を理解することにより、一人一人が自発的に行動が出来るようになった。

(2) どんな事でも話し合えるようになり、また意見も出るようになり、明るく盛り上りのある職場となってきた。

(3) 生産性の向上

全体的には、まだBランクの事業所であり問題もありますが、部分的には、表3のとおり生産性も向上した。

(4) 副作業の減少が図れた。

表3のとおり。

(5) 私傷病休暇について減少が図れた。

表3のとおり。

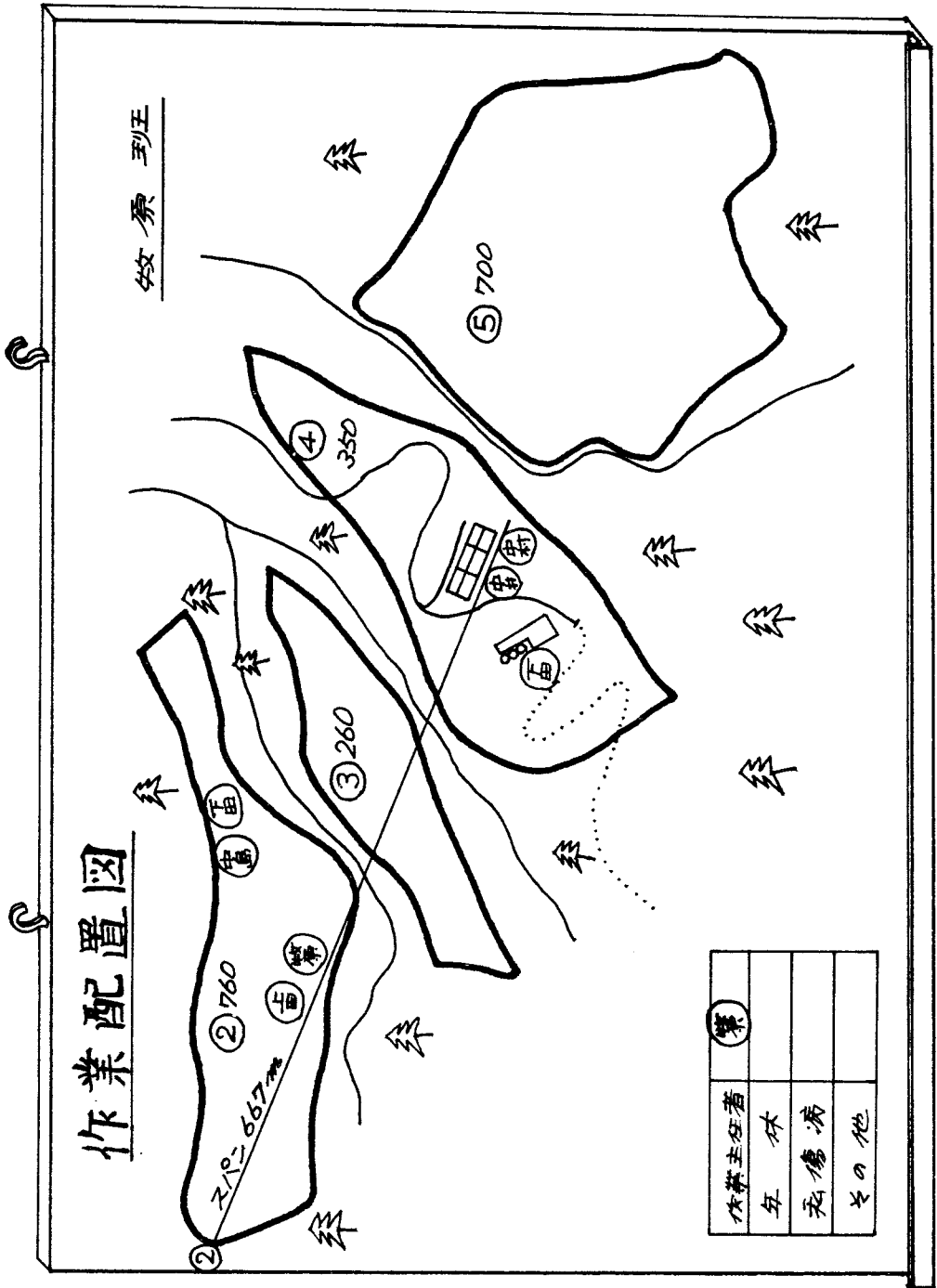
(6) 公務災害の減少

昭和54年7月4日災害発生以来、無災害を続けていたところ、昭和56年10月3日に1件の災害を出して、記録は821日でストップしましたが、その後災害はなく、昭和57年12月末までで454日の無災害を続けており、記録を更新するようみんなで毎日頑張っております。

#### 4. ま と め

以上のような結果から、全体としてはまだまだ満足できるものではありませんが、作業内容も知り、一人一人が自発的に行動し責任を持つことにより、やる気十分になってきて生産性も向上し、私傷病の減少により、活気ある職場となってきた。

表-1



# 行動十字目標

9月 牧原班

完全な退避で実行します。	上田
枝私の際は足元に注意します。	中村
信号は正確に行います。	中井
指差確認を必ず守ります。	下田(亮)
休憩小屋の整理整頓に努めます。	中島
連絡と合図をしっかりと行います。	下田(利)
T.B.Mを毎朝実施します。	牧原

# 行動十字目標

11月 山本班

荷掛の際は充分退避してから合図します。	坂下
健康管理に努めます。	今井
指差確認を徹底します。	橋本
作業前の基本動作を徹底します。	菅沼
機械器具の点検をします。	桐山
足元は充分注意して作業をします。	道林
確実な退避を実行します。	山本

表-8

(注) 冬山作業 作業人数を完了と見做す  
 以上の竹務を当該年度分として繰上した。

	昭和54年度			昭和55年度			昭和56年度			昭和57年度
	夏山	冬山	計	夏山	冬山	計	夏山	冬山	計	夏山
実行数量 人	5603	4161	9764	5810	4568	10378	5368	4429	9797	5687
主 作 業 人	1328	2092	3420	1536	2522	4058	1226	2392	3618	1367
副 作 業 人	787	833	1620	487	762	1249	486	543	1029	380
計 人	2115	2925	5040	2023	3284	5307	1712	2935	4647	1747
功 程 ( %) 概	2.65	1.42	1.94	2.87	1.39	1.96	3.14	1.51	2.11	3.26
副 作 業 率 %	37.2	28.5	32.1	24.1	23.2	23.5	28.4	18.5	22.1	21.8
処 理 人	788	486	1274	734	716	1450	544	344	888	476
合 計 人	2903	3411	6314	2757	4000	6757	2256	3279	5535	2223
公 務 災 害 日	97	0	97	0	0	0	13	0	13	0
私 傷 病 日	77	49	126	60	29	89	40	33	73	32
私 傷 減 率 %	2.7	1.4	2.0	2.2	0.7	1.3	1.8	1.0	1.3	1.4